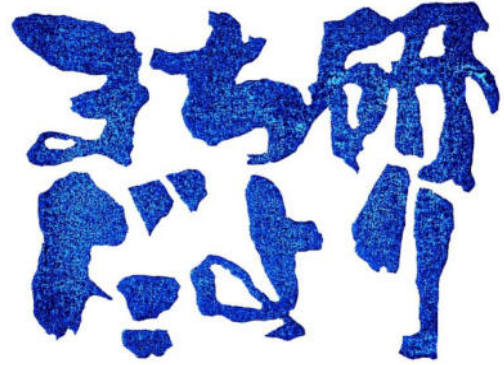


阿波のまちなみ研究会報



2022 年 1 月号

vol.335

- 令和4年新年ご挨拶 2～3
- 第43回 太鼓楼見聞録 4～5
- 藍商「西野嘉右衛門家」調査報告書第3回・・・6～7
- 事務局通信 8

阿波のまちなみ研究会

〒770-0931 徳島市富田浜 2-10 (公社)徳島県建築士会

phone : 088-653-7570 fax : 088-624-1710

令和4年 新年ご挨拶

代表幹事 坂口敏司

新年あけましておめでとうございます。本年も「阿波のまちなみ研究会」共々、宜しくお願い申し上げます。昨年もコロナウイルスの感染対策から十分な活動ができずに悔しい1年でした、今年も年明けからオミクロン株が増え始め、ええ加減にして欲しいと思うこの頃です。この様な状況ですが、隙間を狙って、感染対策をとりながら活動したいと考えております。昨年も書きましたが、負けずに元気に頑張りましょう。

昨年も、一昨年同様に十分な活動が出来ていませんが報告と本年の展望を書かせて頂きます。

●阿波学会総合学術調査は、小松島市の総合学術調査の1年目が実施され、社寺建築班では悉皆調査が終わりました。都市部なので建替えが進んでいるのかと思っていましたが、江戸末期から明治期の社殿が意外と多く残っているという印象でした、また、流造が圧倒的に多い中、春日造の社殿も数社あり興味深いものでした。また、県指定の玄関及び書院を持つ地藏寺では指定を受けていない大師堂、多宝塔なども、興味を惹かれました。本年は2年目の調査で詳細調査を予定しています。



地藏寺大師堂

●民家調査・見学

会員の元木さんが昨年に続き古民家を見学する機会を設けて頂きました、名東郡佐那河内村で2軒の見学を行いました。建物の規模が大きく、敷地も広く、蔵、畑もついているという物件でした。関心のある方は、元木さんまで連絡すれば購入や賃貸ができます。今後も、新たな物件があれば見学させてもらいたいと思います。



佐那河内村の農家 その1
(明治10年の棟札がありました)



佐那河内村の農家 その2
(明治7年の棟札が神棚に置いてあった)

●研修旅行は、やはりコロナウイルスの状況から見送りました。それに代わり三好市池田町佐野の町並みと登録有形文化財「古本家住宅」の見学会を開催しました。詳しくは11月号の原田さんの寄稿をご覧ください。コロナ感染対策から10人程度に人数制限を行った為、広く会員の

皆様へ連絡が出来ず、定例会に参加していた人で定員に達しました、申し訳ありません。コロナ終息のおりには改めて街並みウォッチングを行いたいと思います。

古本家は、明治 13 年に酒造業を始め、その後、酒の小売店を近年まで営んでいました。



古本家玄関周り
(右側引き戸が、店舗入口)

佐野は、四国霊場 66 番札所雲辺寺への入口の集落で可能であれば、雲辺寺までの歩き遍路体験などと思います。また、県外への研修旅行についても状況によりますが検討したいと思います。



佐野の町並み
(古本家から雲辺寺方向を見る)

●「まち研便り」は、本年も活動の成果を発表できる貴重な機会なので、継続したいと思います。昨年度より、活動が充分にできず、原稿の寄稿が減り、奇数月の発行のみとなっています。

会員の寄稿、読者のみなさんも投稿が増え、毎月発行に戻せるようご協力をお願い致します。

●定例会は、毎月第 3 金曜日 19 時より、建築士会会議室で行います。

◎出羽島の建築士会まちづくりハウス完成
前年度、出羽島の伝健修理事業で整備していた福井家住宅の修理が終わり、(建築士会が補助対象外部分の整備に協力した) 建築士会まちづくりハウスとして利用できるようになりました。研修、宿泊に利用できる施設で、活用したいと思います。利用希望の方は建築士会事務局に問い合わせてください。



港の対岸から見る



正面

最後に、本年も、宜しくお願い致します。

太鼓楼見聞録 (43)

藤沢市遊行寺・敦賀市来迎寺

谷中 俊裕 (阿南高専)

1. はじめに

これまでに、時宗寺院としては、連載 12 回でつくば市の妙徳寺の鐘楼門を紹介したが、今回は、太鼓堂を有する 2 件の時宗寺院を紹介したい。太鼓堂(楼)のほとんどは真宗寺院のものだが、同じ浄土系の寺院でも、浄土宗や融通念仏宗では太鼓堂(楼)は未確認で、時宗でもまだ今回の 2 件だけである。

2. 藤沢市遊行寺[清浄光寺](藤沢市西富 1-8-1)

一宝生池に点景を添える瀟洒な宝形一間堂

遊行寺は、言わずと知れた時宗の総本山で、旧東海道の 6 番目の宿場町藤沢に伽藍を構える。というよりは、遊行寺の門前町として発達した藤沢が宿場町としても成長したとする方が適切かもしれない。遊行寺の境内の傍らの遊行寺坂は、新春恒例の箱根駅伝で、箱根以外の難所の 1 つとしても知られる。



写真 1: 遊行寺坂、左は遊行寺東門跡 (Google Street View)

遊行寺は、宗祖の一遍上人の開山ではない。民衆の中で念仏踊をしながら諸国を遊行賦算(念仏札を配ること)するのが時宗の真骨頂で、一遍上人にも拠点の大寺院を建立する意図はなかった。とはいえ、歴代の「遊行上人」(諸国遊行のリーダー)も入寂の直前まで遊行を続けるわけにはいかず、引退後拠点寺院で教団を指導する(「止住・独住」する)必要が生じた。この目的で正中 2 年(1325)四代遊行上人吞海が創建したのが清常光(しょうじょうこう)寺(通称遊行寺)である。ここに止住・独住した遊行上人を「藤沢上人」と呼ぶ。(文献①48)

中世以来兵火や大火、天災により、遊行寺は灰燼に帰するほどの被害を幾度となく被ってきた。しかし、その度に不死鳥のように復活を遂げている。近代においては、明治 13 年(1880)の藤沢大火の類焼、大正 12 年(1923)の関東大震災による諸堂の倒壊のため、現在近世まで遡れる建物は奥への正門である、向唐門形式の中雀門(安政 5 年[1859]建造)のみである。

(文献② 353)



図 1: 遊行寺伽藍の中心部 (文献③)

太鼓堂は、図 1 の通り、本堂と信徒会館、寺務所方面への大玄関である御番方をつなぐ百間廊下から放生(ほうじょう)池方向に突き出て建つ。銅板葺の宝形屋根に露盤宝珠を頂く、一間四方の瀟洒な小堂で、池の水景に点景を加える意図もうかがえる。壁面は白漆喰真壁、廊下側以外の三方に火灯窓を配する。腰部は、布目積の石垣風に洗い砂で固められる。



写真 2: 放生池と太鼓堂、背後は百間廊下と信徒会館



写真 3: 太鼓堂入口を接続する百間廊下から望む

内部は、奥の半間が一段高く、短い箱階段で登る。その台座に現役の太鼓が据えられている。真宗寺院の太鼓楼の太鼓のように法要の合図としての使用はないが、もっぱら日々の時報として用いられているとのことである。

太鼓楼の建造年は確認できなかったが、震災後に順次復興あるいは新造された堂宇の 1 つであろう。傍らの現在の放生池も震災後の新造である。



左 写真4：太鼓堂近景(本堂側)、 右 写真5：太鼓堂内部

3. 敦賀市来迎寺（松島町 2-5-32）

—本堂裏の渡廊につながる入母屋一間堂

来迎寺は、敦賀平野の海岸近く、寺社がやや密に集中する地区の中核寺院の1つである。現在時宗は遊行派に統一されているが、かつて分立して一派をなしていた靈山（りょうざん）派の中心人物、国阿上人によって嘉慶元年（1387）開山された。（文献② 156）東側笹の川の対岸は、近世初期に築城された敦賀城の故地で、豊臣政権下で蜂谷頼隆、次いで大谷吉継が封じられた。幕藩体制下で敦賀は主に小浜藩領になり、敦賀城は一国一城令で廃されたが、同地に引き続き陣屋が置かれた。廃城時に敦賀城から移された中門が来迎寺山門として残る。（文献④）本柱と冠木以外、木柄が極端に細く、元中門というのも頷ける。実は、この門は、薬医門の前方にも控柱を加えたもので、連載39回で筆者が「拡大薬医門」と名付けた形式である。39回の一心寺山門も観音寺城からの移築なので、ともに近世初期の城郭の格式を伝えていると言えるかもしれない。



写真6：来迎寺山門（旧敦賀城中門、「拡大薬医門」形式）

本題の太鼓堂は、庫裏から延びる本堂裏手の渡廊から突き出た棧瓦葺入母屋屋根の一間四方の小堂である。渡廊から分岐する立地としては、遊行寺の太鼓

堂に似る。（ただし、渡廊が空中廊下のため、高位置から太鼓堂に入ることになる。）三方に火灯窓を開け、基部を布目積石垣（こちらは本物の花崗岩）で固めるところも共通する。しかし、四天柱が丸柱、壁面が横羽目板張真壁、石垣上に飾り勾欄をめぐらすところなど、遊行寺のものより重厚な印象がある。内部は残念ながらまだ拝観できていない。石垣の中に埋め込まれた石板に昭和14年建立の銘がある。



写真7：本堂裏の渡廊と太鼓堂

4. おわりに

今回紹介した2件の太鼓堂は、かなり共通点があり、相互に意識し合って建造された可能性がある。しかし、いずれも真宗寺院の太鼓楼に多く見られる近世城郭の櫓風の形態とはかなり異なる。石垣上に単層堂が乗る外観も、多少は城郭風と言えなくもないが、全体的には風雅さが勝る意匠と言える。時宗が真宗ほど戦う寺としての歴史背景を持たないことも反映しているのだろう。なお、石垣基壇上の単層太鼓堂の例は、連載5回で福岡県芦屋町の真宗寺院安養寺のものを紹介している。



写真8：来迎寺太鼓堂と渡廊の接続部

参考文献

- ①橋 俊道（1978）『遊行寺—中世の時宗総本山』、藤沢文庫2、名著出版
- ②清浄光寺史編集委員会、長島尚道編（2007）『清浄光寺史』、藤沢山無量光院清浄光寺 高木貞観
- ③時宗総本山遊行寺編刊、『時宗総本山遊行寺』、参拝者へのパンフレット、<http://www.jishu.or.jp/> 2022/01/20 閲覧
- ④敦賀みなとライオンズクラブ（1997）『敦賀城の跡、敦賀町奉行所・代官所の跡、敦賀県庁の跡』、敦賀城跡の説明版

藍商「西野嘉右衛門家」調査報告書

(第3回)

4. 主屋

二階建て日本瓦本葺きの主屋は右勝手で、1階部分の間口は9間、奥行きは6間である。正面、中央部には入母屋屋根に檜皮葺小庇の付く本格的な式台の玄関を構える。間取りはオモテ側に3間、オク側に3間、中央に2間を有する変形の八間取りである。かつてカマヤであった部分には床が張られ台所になっているが、その他の部分の改造は少ない。特に、オモテ側の「ウチゲンカン」「ミセノマ」「オオゲンカン」「オモテノマ」は全くといって良いほど改造の後は認められず、贅を尽くした室内空間は創建当時と変わらぬ佇まいを有する。中でもオモテノマは、長押の釘隠、床の間、屋久杉の天井、家紋を透かし彫りにした書院の障子など、特筆すべきものが多い。

西側の便所は戦前に皇族が当家を訪れた際に模様替えされたもので、壁面を黒く仕上げるように指定されたという。今でも、黒漆喰で仕上げられた壁面を見ることができ、当時の名残を残している。

2階部分も間口が9間、奥行きが5間と規模が大きい。間取りはかなり複雑で、二畳～四畳の小部屋や十畳の続き間など大小さまざまな部屋を9室有する。西側に設けられた十畳の続き間では、かつて、西野家の決算業務が行われたという。2階へ上がる階段が2カ所に設けられているのは珍しく、接客用とサービス用というような使い分けがされていたのかもしれないが、その点は定かではない。

主屋の屋根は切り妻を基本とし、玄関部分と2階の北西側に半間飛び出した部分が入母屋に、西側平屋の便所部分は寄せ棟になっている。全体の普請のグレードを考えると、全て入母屋であってもおかしくないが、おそらくは、北側の中町の通りから正面に見える部分と、長屋門を入れて正面に見える玄関部分に意匠を凝らした結果であろう。

主屋の建築時期は先述の通り、棟札にて安政2年と確認できたが、この棟札も幅143mm、高さ863mm、厚さ50mmと通常の住宅ではあまり例を見ない立派なものであった。



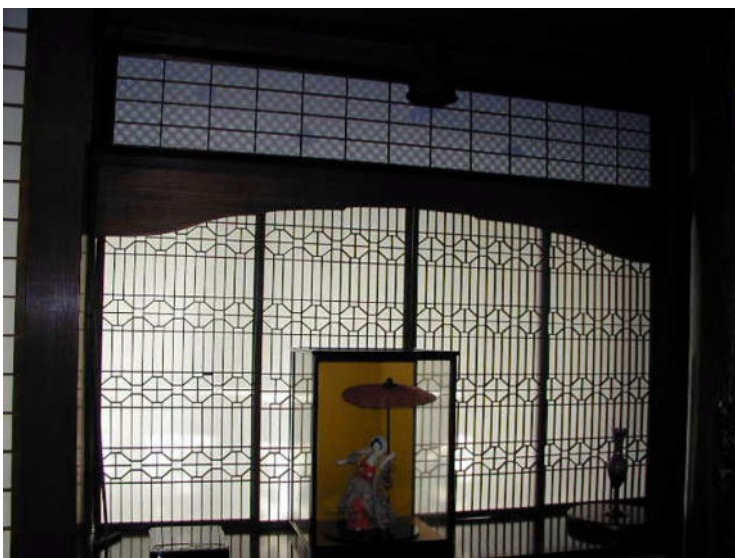
主屋正面



主屋玄関



オモテノマの床



書院の障子

【事務局通信】

令和3年11月例会の報告

◇令和3年11月19日(金)17:00～
建築士会会議室
まち研だより発送作業：林、丸山、島田

◇例会 令和3年11月19日(金)19:00～21:00
参加者：谷中、林、丸山、島田

◇林さんより、11月13日に実施した 佐野のまち歩き
の報告と、「東京建築さんぽマップ」のルートに
則って訪れた建築物の紹介がありました。



↑ 11月例会のようす

令和3年12月例会の報告

◇令和3年12月17日(金) 19:00～21:00
建築士会会議室

参加者：喜多、坂口、林、真鍋、丸山、島田

◇林さんより、まち研の活動記録の紹介がありました。
昭和59年に『阿波のまちなみ研究会』を発足して以来、
県下のさまざまなまちなみの調査・研究をおこなって
きたまち研の活動記録は、とても見ごたえがありました。



イベント・情報提供

◇『省エネ時代の徳島のすまいと暮らし』
これからの建て方・住まい方を考える
シンポジウム開催のお知らせ

地球温暖化防止や化石燃料に依存したエネルギーからの脱却を目指して、住宅の省エネ化を目指す動きが活発化しています。そうしたなか、これからの徳島での住まいづくりや暮らし方はどうあるべきかを考えるJIA主催のシンポジウムが開催されます。当会から喜多さんが登壇され徳島の民家の特徴についてレクチャーする予定です。どなたでも参加可能です。

日時：令和4年2月18日(金) 13:00～
会場：徳島建設センター6階
主催：(公社)日本建築家協会 徳島地域会
※問い合わせはJIA 徳島地域会まで

令和4年2月例会のお知らせ

◇令和4年2月20日(日)
出羽島まちづくりハウス
詳細は追ってお知らせします
◇まち研だより発送作業はありません。

編集部から

☆いったん治まったかに見えた感染症が再び猛威をふるっています。みなさま、ご自愛ください。

☆引き続き原稿を募集しています。送付は以下のアドレスまで。

Mail to: m-style@mb.pikara.ne.jp

《まち研だより》2022年1月号 VOL.335号
発行日 令和4年1月21日(金)
発行 阿波のまちなみ研究会
〒770-0931 徳島市富田浜2丁目10
(公社)徳島県建築士会
TEL. 088-653-7570 FAX. 088-624-1710

代表者 坂口敏司(坂口建築設計室)
事務局 真鍋憲資(studioKEN) 088-635-4272
studioken@mc.pikara.ne.jp
編集者 島田めぐみ(M-STYLE 設計室)
谷中俊裕(阿南工業高等専門学校)